

われら

デジタルマスターズ 第6回

デジタルを通して これからの人生に ひと花咲かせたい

パソコンなどのデジタル機器を積極的に活用し、人生をアクティブに謳歌している方々にインタビューする本連載。今回は、京都・伏見で長年にわたりシニアの皆さんへのIT支援に取り組んでいる馬場(ばんば)次代さんの登場です。

文／小野幸伸(編集部) 写真／山本尚侍



NPO法人 花パン理事長

馬場次代さん

花パンのスタッフのうち9人が同法人の講座の受講者。最初はみんなパソコンには詳しくはなかったといいますが、講座で学び、さらに教える立場になってどんどんスキルアップしたそうです。

「年齢に関係なく、技術や知識があれば、仕事や生きがい作りができるはず」——馬場さんは「花パン」を設立したきっかけをこう話します。これは馬場さん自身が実際に体験したことでありました。

子育てがひと段落し、もう一度社会に出て働いてみたいと思った馬場さんは、25年前、パソコン教室に通うことにしました。もともと大型コンピュータのオペレーターだった馬場さんは、パソコンのことはすぐに理解できたといいます。そして派遣社

員として働きたすと、即戦力として次々と企業から声がかかり、派遣会社から表彰されるまでの人材になりました。「当時は40歳を過ぎた女性はなかなか派遣社員としては難しかったのですが、技術があれば仕事ができる」と実感しました」と馬場さん。

そして、子育ての終わった女性やシニアの生きがい作りにパソコンを役立てようと、9年前に「花パン」を設立。「これからの人生にひと花咲かせたい」という思いが、その名前に込められています。